

# 平成 26 年度 学校保健統計調査結果報告（広島県分）の概要について

平成 27 年 3 月 30 日  
統 計 課

## 1 調査の概要

この調査は、幼児、児童及び生徒の発育状態及び健康状態を明らかにすることを目的に文部科学省が昭和 23 年から毎年実施しているものです。平成 26 年 4 月 1 日から平成 26 年 6 月 30 日までの間に、学校保健安全法（昭和 33 年法律第 56 号）に基づき実施した健康診断結果により調査しています。

この速報は、広島県内の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校のうち、満 5 歳から満 17 歳までの幼児、児童及び生徒の一部を抽出し、発育状態調査と健康状態調査の 2 調査について、平成 26 年度の基本的事項をまとめたものです。

## 2 調査結果の主な特徴

(1) 発育状態調査では、男子については、身長（平均値）及び座高（平均値）の全ての年齢において全国平均を同程度若しくは下回りました。

女子については、身長（平均値）の全ての年齢において全国平均を下回りました。

(2) 健康状態調査では、いずれの学校段階においても「むし歯（う歯）」の者の割合が最も高くなっています。中学校以外の学校段階ではこれに次いで「裸眼視力 1.0 未満の者」が続いています。

「むし歯（う歯）」の者の割合は、いずれの学校段階においても低下傾向で、全国値を下回りました。

「裸眼視力 1.0 未満の者」の割合は、公表されている幼稚園、小学校及び高等学校の学校段階で全国値を下回りました。

## 3 調査結果の概要

### (1) 発育状態調査

#### ア 身長

身長（平均値）は、前年度比較において、男子は 5 歳、8 歳、11 歳、13 歳及び 15 歳のそれぞれについて増加し、また、女子については、8 歳、10 歳及び 11 歳のそれぞれについて増加しました。

また、男子及び女子の全ての年齢において全国平均を同程度若しくは下回りました。

さらに、親世代である 30 年前の昭和 59 年度調査と比べてみると、最も差があるのは、男子は 12 歳で 2.4cm、女子は 11 歳で 1.6cm、それぞれ親世代より高くなっています。（表 1）

表 1 年齢別身長の平均値

(単位：cm)

校種・年齢	男 子								女 子					
	平成26年度				昭和59年度				平成26年度				昭和59年度	
	A		B		A		B		A		B			
	広島県	前年差	全 国	全国差	広島県	(A-B)	広島県	前年差	全 国	全国差	広島県	(A-B)		
幼稚園	5歳	110.3	0.3	110.3	0.0	110.2	0.1	109.0	△ 0.1	109.5	△ 0.5	109.4	△ 0.4	
	小学校	6歳	116.1	0.0	116.5	△ 0.4	115.9	0.2	114.9	0.0	115.5	△ 0.6	115.0	△ 0.1
小学校	7歳	121.9	△ 0.1	122.4	△ 0.5	121.2	0.7	120.6	△ 0.6	121.5	△ 0.9	120.5	0.1	
	8歳	127.6	0.2	128.0	△ 0.4	126.8	0.8	126.9	0.2	127.4	△ 0.5	126.0	0.9	
	9歳	132.8	△ 0.5	133.6	△ 0.8	131.7	1.1	132.7	△ 0.3	133.4	△ 0.7	131.5	1.2	
	10歳	138.1	0.0	138.9	△ 0.8	137.6	0.5	139.4	0.5	140.1	△ 0.7	138.0	1.4	
	11歳	144.4	0.4	145.1	△ 0.7	142.7	1.7	146.5	0.4	146.8	△ 0.3	144.9	1.6	
中学校	12歳	151.7	△ 0.4	152.5	△ 0.8	149.3	2.4	151.1	△ 0.3	151.8	△ 0.7	150.4	0.7	
	13歳	158.8	0.2	159.7	△ 0.9	157.2	1.6	154.0	△ 0.3	154.8	△ 0.8	154.0	0.0	
	14歳	164.0	△ 0.6	165.1	△ 1.1	163.2	0.8	155.4	△ 0.6	156.4	△ 1.0	155.9	△ 0.5	
高等学校	15歳	※168.1	1.1	168.3	△ 0.2	167.0	1.1	156.4	△ 0.3	157.0	△ 0.6	156.6	△ 0.2	
	16歳	168.4	△ 0.5	169.8	△ 1.4	168.7	△ 0.3	156.8	△ 0.4	157.6	△ 0.8	156.7	0.1	
	17歳	169.8	0.0	170.7	△ 0.9	169.6	0.2	157.6	0.0	157.9	△ 0.3	157.2	0.4	

(注) 1   は前年度より増加した値を示す。

(注) 2 ※は調査実施以来の最高値を示す。

## イ 体 重

体重(平均値)は、前年度比較において、男子は6歳、7歳、10歳、15歳、16歳及び17歳のそれぞれについて増加し、また、女子は、8歳、10歳、11歳及び14歳のそれぞれについて増加しました。

また、親世代である30年前の昭和59年度調査と比べてみると、最も差があるのは、男子は12歳で2.1kg、女子は11歳で2.0kg、それぞれ親世代より増加しています。(表2)

表2 年齢別体重の平均値

(単位: kg)

校種・年齢		男 子						女 子					
		平成26年度				昭和59年度		平成26年度				昭和59年度	
		A		B		A		B					
		広島県	前年差	全 国	全国差	広島県	(A-B)	広島県	前年差	全 国	全国差	広島県	(A-B)
幼稚園	5歳	18.8	0.0	18.9	△ 0.1	18.8	0.0	18.3	△ 0.2	18.5	△ 0.2	18.5	△ 0.2
小学校	6歳	21.4	0.3	21.3	0.1	20.7	0.7	20.5	△ 0.1	20.8	△ 0.3	20.4	0.1
	7歳	23.8	0.1	24.0	△ 0.2	23.2	0.6	23.3	0.0	23.4	△ 0.1	22.8	0.5
	8歳	26.9	0.0	27.0	△ 0.1	25.7	1.2	26.2	0.2	26.4	△ 0.2	25.6	0.6
	9歳	29.7	△ 0.3	30.4	△ 0.7	28.9	0.8	29.5	△ 0.6	29.8	△ 0.3	28.7	0.8
	10歳	33.7	0.5	34.0	△ 0.3	32.7	1.0	33.6	0.5	34.0	△ 0.4	32.4	1.2
中学校	11歳	37.6	△ 0.1	38.4	△ 0.8	35.7	1.9	39.5	1.1	39.0	0.5	37.5	2.0
	12歳	43.2	△ 0.3	44.0	△ 0.8	41.1	2.1	43.1	△ 0.7	43.6	△ 0.5	42.6	0.5
	13歳	48.1	△ 0.2	48.8	△ 0.7	46.9	1.2	46.6	△ 0.2	47.2	△ 0.6	46.5	0.1
高等学校	14歳	53.4	△ 0.5	53.9	△ 0.5	52.1	1.3	49.5	0.1	50.0	△ 0.5	49.1	0.4
	15歳	58.8	0.6	58.9	△ 0.1	57.2	1.6	50.2	△ 1.4	51.4	△ 1.2	51.0	△ 0.8
	16歳	60.5	0.8	60.7	△ 0.2	58.6	1.9	52.5	0.0	52.4	0.1	52.6	△ 0.1
	17歳	62.6	0.3	62.6	0.0	61.1	1.5	52.7	0.0	52.9	△ 0.2	52.1	0.6

(注)  は前年度より増加した値を示す。

## ウ 座 高

座高(平均値)は、前年度比較において、男子は8歳、10歳、11歳、12歳及び15歳のそれぞれについて増加し、また、女子は、6歳、10歳、11歳、16歳及び17歳のそれぞれについて増加しました。

座高(平均値)は、男子の全ての年齢において全国平均を下回りました。

さらに、親世代である30年前の昭和59年度調査と比べてみると、最も差があるのは、男子は12歳で1.2cm、女子は11歳で1.1cm、それぞれ親世代より高くなっています。(表3)

表3 年齢別座高の平均値

(単位: cm)

校種・年齢		男 子						女 子					
		平成26年度				昭和59年度		平成26年度				昭和59年度	
		A		B		A		B					
		広島県	前年差	全 国	全国差	広島県	(A-B)	広島県	前年差	全 国	全国差	広島県	(A-B)
幼稚園	5歳	61.6	△ 0.1	61.8	△ 0.2	62.4	△ 0.8	61.1	△ 0.2	61.3	△ 0.2	62.0	△ 0.9
小学校	6歳	64.6	0.0	64.8	△ 0.2	64.9	△ 0.3	64.1	0.1	64.4	△ 0.3	64.7	△ 0.6
	7歳	67.4	△ 0.1	67.6	△ 0.2	67.4	0.0	66.9	△ 0.3	67.2	△ 0.3	67.1	△ 0.2
	8歳	70.1	0.1	70.2	△ 0.1	69.7	0.4	69.7	0.0	69.9	△ 0.2	69.5	0.2
	9歳	72.4	△ 0.3	72.6	△ 0.2	72.3	0.1	72.5	△ 0.3	72.6	△ 0.1	72.1	0.4
	10歳	74.8	0.2	74.9	△ 0.1	74.6	0.2	75.7	0.4	75.8	△ 0.1	75.0	0.7
中学校	11歳	77.4	0.1	77.6	△ 0.2	76.7	0.7	79.4	0.5	79.3	0.1	78.3	1.1
	12歳	81.1	0.2	81.3	△ 0.2	79.9	1.2	82.1	0.0	82.1	0.0	81.6	0.5
	13歳	84.5	0.0	84.9	△ 0.4	83.5	1.0	83.7	△ 0.1	83.8	△ 0.1	83.4	0.3
高等学校	14歳	87.6	△ 0.3	88.1	△ 0.5	86.8	0.8	84.6	△ 0.2	84.9	△ 0.3	84.3	0.3
	15歳	※90.3	0.4	90.4	△ 0.1	89.4	0.9	85.4	△ 0.2	85.4	0.0	85.3	0.1
	16歳	90.7	△ 0.4	91.4	△ 0.7	90.2	0.5	85.6	0.1	85.7	△ 0.1	85.1	0.5
	17歳	91.7	0.0	92.0	△ 0.3	90.9	0.8	※85.9	0.2	85.9	0.0	85.1	0.8

(注) 1  は前年度より増加した値を示す。

(注) 2 ※は調査実施以来の最高値を示す。

## (2) 健康状態調査

### ア 主な疾病・異常の被患率順位

平成 26 年度の定期健康診断における幼児、児童及び生徒の各疾病・異常の被患率は、いずれの学校段階においても「むし歯(う歯)」の者(処置完了者を含む。以下同じ)の割合が最も高い率になっています。中学校以外の学校段階ではこれに次いで「裸眼視力 1.0 未満の者」が続いています。(表 4)

表 4 主な疾病・異常の被患率順位

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	検査項目	%	検査項目	%	検査項目	%	検査項目	%
1	むし歯(う歯)	31.9	むし歯(う歯)	49.7	むし歯(う歯)	35.0	むし歯(う歯)	51.0
2	裸眼視力 1.0未満の者	18.3	裸眼視力 1.0未満の者	26.7	鼻・副鼻腔疾患	10.7	裸眼視力 1.0未満の者	41.3
3	鼻・副鼻腔疾患	8.9	鼻・副鼻腔疾患	12.8	眼の疾病・異常	6.4	鼻・副鼻腔疾患	6.1
4	歯列・咬合	3.2	眼の疾病・異常	7.3	歯肉の状態	5.8	歯肉の状態	5.4
5	アトピー性 皮膚炎	3.2	耳疾患	5.5	歯列・咬合	5.5	歯垢の状態	5.1
6	眼の疾病・異常	3.0	歯列・咬合	4.3	歯垢の状態	5.5	歯列・咬合	4.3
7	耳疾患	2.7	アトピー性 皮膚炎	3.7	せき柱・胸郭	4.3	蛋白検出の者	4.1
8	ぜん息	2.1	ぜん息	3.4	蛋白検出の者	4.1	眼の疾病・異常	4.0
9	その他の 皮膚疾患	1.4	歯垢の状態	3.0	心電図異常	3.7	心電図異常	3.9
10	口腔咽喉頭疾患 ・異常	1.4	歯肉の状態	2.5	ぜん息	3.6	耳疾患	2.5

(注) 中学校の「裸眼視力 1.0 未満の者」は、裸眼視力検査が省略される等サンプル数が少ないため、又は、標準誤差が 5%以上等のため公表されていない。

### イ 主な疾病・異常の推移

平成 26 年度の「むし歯(う歯)」の者の割合は、高等学校を除く学校段階で前年度を下回っています。また、いずれの学校段階においても低下傾向にあります。

「鼻・副鼻腔疾患」の被患率は、他の学校段階と比較して、小学校において、高く推移しています。

「アトピー性皮膚炎」及び「ぜん息」の被患率は、他の学校段階と比較して、高等学校において、低く推移しています。(表 5)

表 5 主な疾病・異常の推移

検査項目	幼稚園					小学校					中学校					高等学校				
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
むし歯(う歯)	39.5	41.8	37.6	34.0	31.9	52.9	50.6	51.7	51.1	49.7	40.6	40.2	36.3	38.3	35.0	53.9	52.4	49.7	48.8	51.0
裸眼視力1.0未満の者	X	X	X	X	18.3	27.7	26.7	27.9	27.7	26.7	36.4	X	51.2	X	X	X	X	53.1	62.3	41.3
鼻・副鼻腔疾患	4.8	5.5	4.8	7.0	8.9	11.4	12.4	12.2	14.0	12.8	8.5	8.0	9.8	9.3	10.7	6.3	9.4	8.4	9.5	6.1
アトピー性皮膚炎	3.4	3.1	3.5	3.7	3.2	3.8	3.6	3.9	2.9	3.7	3.2	2.6	3.1	3.2	3.6	3.0	2.8	1.5	2.3	2.3
ぜん息	2.3	3.0	1.3	3.3	2.1	3.5	3.7	3.3	3.2	3.4	1.5	1.7	2.6	2.2	3.6	1.8	1.2	1.1	1.2	0.8

## ウ 主な疾病・異常の全国値との比較

「むし歯（う歯）」の者の割合は、いずれの学校段階においても全国値を下回っており、特に中学校では7.4ポイントの差があります。

「裸眼視力1.0未満の者」の割合は、公表されている幼稚園、小学校及び高等学校の学校段階で全国値を下回りました。

「鼻・副鼻腔疾患」の被患率は、中学校及び高等学校の学校段階で全国値を下回りました。

「アトピー性皮膚炎」の被患率は、いずれの学校段階においても全国値を上回りました。

「ぜん息」の被患率は、小学校及び高等学校の学校段階において全国値を下回りました。（表6）

表6 主な疾病・異常の全国値との比較

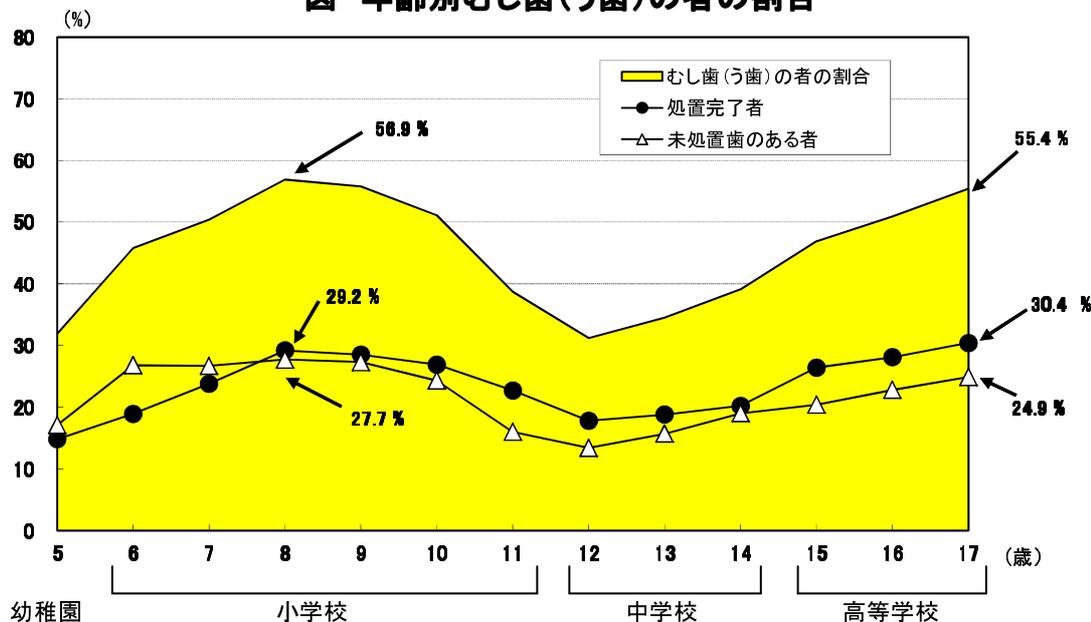
検査項目	幼稚園			小学校			中学校			高等学校		
	広島県	全国	全国差									
むし歯（う歯）	31.9	38.5	△ 6.6	49.7	52.5	△ 2.8	35.0	42.4	△ 7.4	51.0	53.1	△ 2.1
裸眼視力1.0未満の者	18.3	26.5	△ 8.2	26.7	30.2	△ 3.5	X	53.0	-	41.3	62.9	△ 21.6
鼻・副鼻腔疾患	8.9	3.1	5.8	12.8	12.3	0.5	10.7	11.2	△ 0.5	6.1	8.7	△ 2.6
アトピー性皮膚炎	3.2	2.4	0.8	3.7	3.2	0.5	3.6	2.5	1.1	2.3	2.1	0.2
ぜん息	2.1	1.9	0.2	3.4	3.9	△ 0.5	3.6	3.0	0.6	0.8	1.9	△ 1.1

## エ むし歯（う歯）の年齢別の推移

平成26年度の「むし歯（う歯）」の者の割合は、幼稚園が31.9%、小学校49.7%、中学校35.0%、高等学校51.0%となっています。

「むし歯（う歯）」の者の割合を年齢別にみると8歳が56.9%と最も高くなっています。また、8歳以降では、処置完了者の割合が未処置歯のある者の割合を上回っています。（図）

図 年齢別むし歯（う歯）の者の割合



問い合わせ先 広島県総務局統計課 消費経済・教育統計グループ  
電話 082-513-2534 (ダイヤルイン)